整理番号　：00306300
作成日　：2013 年 6 月 24 日
改訂日　：　　年　　月　　日

製品安全データシート

１．製品及び会社情報

製品名　：　Ｒ＆Ｓ　アンダープロテクト（ブラック）
会社名　：　株式会社ライジングサン
住所　：　東京都港区台場２－３－２　台場フロンティアビル
担当部門　：　営業企画部　企画課
電話番号　：　03-5531-6233
FAX 番号　：　03-5531-6820

２．危険有害性の要約

ＧＨＳ分類

物理化学的危険性	：	可燃性／引火性エアゾール	区分１
		自然発火性液体	区分外
		水反応可燃性化学品	区分外
健康有害性	：	急性毒性（経口）	区分外
		急性毒性（経皮）	区分外
		急性毒性（吸入：粉塵・ミスト）	区分４
		皮膚腐食性／刺激性	区分２
		生殖細胞変異原性	区分２
		特定標的臓器毒性（単回暴露）	区分３（麻酔作用）
		特定標的臓器毒性（反復暴露）	区分２（肝臓、精巣、肺、皮膚）
		吸引性呼吸器有害性	区分１
環境有害性	：	水生環境有害性（急性）	区分２
		水生環境有害性（慢性）	区分２

上記で記載がない危険有害性は、分類対象外または分類できない

ＧＨＳラベル要素

絵表示又はシンボル　：

注意喚起語　：危険

危険有害性情報　：極めて可燃性・引火性の高いエアゾール
吸入すると有害
皮膚刺激
遺伝性疾患のおそれの疑い
眠気やめまいのおそれ
長期または反復暴露により肝臓，精巣，肺，皮膚の障害のおそれ
飲み込んで気道に侵入すると生命に危険のおそれ
水生生物に毒性
長期的影響により水生生物に毒性

注意書き　：使用前に取扱説明書を入手すること。
すべての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
熱，火花，裸火，高温のものから遠ざけること。－禁煙。

裸火または他の着火源に噴霧しないこと。
加圧容器：使用後も含め穴をあけたり燃やしたりしないこと。
粉じん，煙，ガス，ミスト，蒸気，スプレーの吸入を避けること。
取扱い後は手，顔などをよく洗うこと。
屋外または換気の良い場所でのみ使用すること。
環境への放出を避けること。
呼吸用保護具を着用すること。
保護手袋を着用すること。保護衣を着用すること。
飲み込んだ場合：直ちに医師に連絡すること。
気分が悪い時は、医師に連絡すること。
暴露又は暴露の懸念がある場合：医師の診断，手当を受けること。
皮膚刺激が生じた場合：医師の診断，手当てを受けること。
吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し､呼吸しやすい姿勢で休息させること｡無理に吐かせないこと。
皮膚に付着した場合：多量の水と石鹸で洗うこと。
汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯すること。
漏出物を回収すること。
容器を密閉して換気の良い場所で保管すること。
施錠して保管すること。
日光から遮断し、５０℃以上の温度に暴露しないこと。
日光から遮断し、換気の良い場所で保管すること。
高圧ガス：熱すると爆発するおそれあり。
摂取すると有機溶剤中毒をおこすおそれ。
関係法令に応じ、本製品を摂取しない様に適切な保護具（マスク・手袋・保護衣等）を着用すること。
内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

３．組成、成分情報

単一製品・混合品の区分　：混合物
化学名　：石油系炭化水素及び添加剤
成分及び含有量　：（原液成分）石油系炭化水素３５％以下
：（原液成分）防錆添加剤２５％以上
：（噴射剤）　ＤＭＥ　４０～５０％
化学式又は構造式　：特定できない
労働安全衛生法　：労働安全衛生法　施行令別表第一危険物（可燃性ガス）

通知対象物	[%]	[CAS No.]
ﾐﾈﾗﾙｽﾋﾟﾘｯﾄ	20～25	-
固形ﾊﾟﾗﾌｨﾝ	3～7	8002-74-2
鉱油	1～5	-
*1 1,2,4-ﾄﾘﾒﾁﾙﾍﾞﾝｾﾞﾝ	1～5	95-63-6
ｶｰﾎﾞﾝﾌﾞﾗｯｸ	0.1～0.5	1333-86-4

ＰＲＴＲ法第１種指定化学物質：*1 1,2,4-ﾄﾘﾒﾁﾙﾍﾞﾝｾﾞﾝ　1.9%
消防法：危険物第四類第二石油類（非水溶性）
（*1：代表値石油系炭化水素に不純物として含有、意図的添加ではない）

整理番号 ： 00306300
作成日 ： 2013 年 6 月 24 日
改訂日 ：　　年　月　日

４．応急措置

吸入した場合	：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。 呼吸が不規則か、止まっている場合には人工呼吸を行う。 嘔吐がある場合は頭を横向きにして嘔吐物を詰まらない様にする。 気分が悪い時は、医師に連絡すること。
皮膚に付着した場合	：皮膚を多量の水と石ケンで洗うこと。汚染された衣類を脱ぐこと。 刺激，痛み，水泡，発疹，気分が悪い等の場合、医師に連絡すること。 汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯すること。
目に入った場合	：必要に応じて、水で数分間洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外し、洗浄をすること。必要に応じて、医師の診断，手当を受けること。
飲み込んだ場合	：無理に吐かせないこと。必要に応じて、口をすすぐこと。直ちに医師に連絡し、診断，手当を受けること。嘔吐がある場合は安静にさせ､頭を横向きにして嘔吐物を詰まらない様にする。
予想される急性症状および遅発性症状、最も重要な徴候または症状	：誤飲した場合、胃の粘膜を刺激し、嘔吐、胃痛、下痢等の症状を起こすことがある。また、飲み込んだ当該製品が肺に吸入されると、肺組織の内出血、肺水腫、化学性肺炎等を起こすことがある。

５．火災時の措置

使用可能消火剤	：霧状の強化液、泡、粉末又は炭酸ガス消火剤が有効である。 消火に棒状の水を用いてはならない。
火災時の特有危険有害性	：極めて燃えやすく、熱、火花、火炎で容易に発火する。 加熱により容器が爆発するおそれがある。
特有の消火方法	：火元への燃焼源を断つ。初期の火災には、粉末、炭酸ガス消火剤を用いる。 大規模火災の際には、泡消火剤を用いて空気を遮断することが有効である。注水は、火災を拡大し危険な場合がある。 周囲の設備などに散水して冷却する。
消火を行う者の保護	：消火作業の際には、風上から行い必ず保護具を着用する。 火災発生場所の周辺に関係者以外の立ち入りを禁止する。

６．漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置	：全ての着火源を速やかに取り除き、漏洩箇所の漏れを止める。 危険地域より人を退避させる。危険地域の周辺にはロープを張り、人の立ち入りを禁止する。 消火用機材を準備する。作業では消火用保護具を着用する。 室内で流出した場合は、窓・ドアを開け十分に換気を行う。
環境に対する注意事項	：下水道・河川等に流出し、二次災害・環境汚染を起こさないよう注意する。 海上の場合は、オイルフェンスを展開して拡散を防止し、吸着マットなどで吸い取る。薬剤を用いる場合は運輸省令で定める技術上の基準に適合したものでなければならない。
回収、中和、封込、浄化	：少量の場合は、土、砂、おがくず、ウエス等に吸収させる。 大量の場合は、盛り土で囲って流出を止めた後、液面を泡で覆い容器等に回収する。
二次災害の防止策	：消防に連絡して、漏洩箇所と当該製品の危険有害性を伝える。

整理番号 ： 00306300
作成日 ： 2013 年 6 月 24 日
改訂日 ：　　年　月　日

７．取扱い及び保管上の注意

取り扱い上の注意

技術的対策、注意事項　：炎、火花又は高温体との接触をさけるとともに、みだりに蒸気を発散させないこと。容器から取り出す時はポンプなどを使用すること、細管を用い口で吸い上げてはならない。容器を転倒させたり、衝撃をあたえるなどの粗暴な取り扱いはしないこと。取り扱いの都度、容器を密閉すること。

安全取扱い注意事項　：指定数量以上の量を取扱う場合には、法で定められた基準に満足する製造所、貯蔵所、取扱所で行う。
静電気対策を行い、作業着、靴等も導電性の物を使用する。
皮膚に触れたり、目に入る可能性がある場合は、保護具を着用すること。
特化則もしくは有機則に該当する石油製品を屋内作業場で取り扱う際、ガス等が発散する場合には、発生源の密閉装置、局所排気装置など、法に定められた設備を設けなければならない。
人体に向けて使用しないこと。炎に向けて使用しないこと
ストーブやコンロ等火気の付近で使用しないこと。
火気を使用している室内で大量に使用しないこと。
火の中に入れないこと。

保管上の注意

適切な保管条件　：保管場所で使用する電気器具は防爆構造とし、器具類はアースをとる。
破裂する恐れがあるので、直射日光の当たる所や温度が４０度以上となる所や錆の発生しやすい水、湿気の多い場所に置かないこと。
特に車のフロントウインドウやリヤウインドウの周辺又は座席の上などに置かないこと。

技術的対策　：冷暗所で換気の良い場所に保管すること。危険物の表示をして保管する。
エアゾール缶よりの詰め替え厳禁。
熱、スパーク、火炎ならびに静電気の蓄積を避ける。

混触禁止物質　：類の異なる危険物（ハロゲン類、強酸類、アルカリ類、化性物質）との接触ならびに同一場所での保管を避ける。

安全な容器包装材料　：安全な容器包装材料について消防法に定める容器を推奨する。

８．暴露防止及び保護措置

管理濃度　：石油系炭化水素としては規定なし。
（作業環境評価基準：厚生労働省告示第 604 号、平成 24.12.28）

許容濃度

日本産業衛生学会　：3mg/m³ （鉱油ミストとして）
（2004 年度版）　120mg/m³(25ppm)(ﾄﾘﾒﾁﾙﾍﾞﾝｾﾞﾝ異性体混合物)

ＡＣＧＩＨ　：TWA 5mg/m³ （オイルミストとして）
（2004 年度版）　TLV-TWA 25ppm（ﾄﾘﾒﾁﾙﾍﾞﾝｾﾞﾝ異性体混合物）

設備対策　：屋内作業所は、防爆タイプの排気装置を設ける。取扱場所の近辺に洗顔および身体洗浄のための設備を設ける。

保護具

呼吸用の保護具　：必要に応じ防毒マスク（有機ガス用）を使用する。
目の保護具　：飛沫が飛ぶ場合には、保護眼鏡を使用する。
保護手袋　：長期間または繰り返し接触する場合には、耐油性の物を使用する。
保護衣　：長期間にわたり取り扱う場合または濡れる場合には、耐油性の長袖作業着を着用する。

９．物理的及び化学的性質

原液

外観等	：黒色粘稠体
臭い	：石油臭
ｐＨ	：データなし
凝固点	：10℃以下
沸点	：150℃以上
引火点	：40℃(下限値)
発火点	：230℃以上
爆発限界	：上限：７%、下限：１%（推定値）
蒸気圧	：データなし
蒸気密度	：データなし
密度	：0.90～1.10g/cm^3
溶解度(水)	：不溶
n-ｵｸﾀﾉｰﾙ/水分配係数	：データなし
分解温度	：データなし

噴射剤(DME)

外観等	：無色
臭い	：強力な独特なにおい（クロロホルム類似臭）
融点	：-138.5℃
沸点	：-24.8℃
引火点	：-41.1℃
発火点	：350℃
爆発限界	：3.4～27 vol%
蒸気圧	：4450 mmhg　(25℃)
蒸気密度	：1.6(空気＝1)
密度	：0.661 g/cm^3
分解温度	：データなし
溶解度(水)	：7.0g/100g (18℃)
n-ｵｸﾀﾉｰﾙ/水分配係数	：データなし
分解温度	：データなし

１０．安定性及び反応性

安定性	：常温、常圧では酸、アルカリに対して安定。化学的に不活性
危険有害反応可能性	：極端な加熱、酸化剤との接触は避ける。
避けるべき条件	：日光、熱、裸火、高温、スパーク、静電気、その他発火源
混触危険物質	：ハロゲン類、強酸類、アルカリ類、酸化性物質との接触がないようにする。
危険有害分解生成物	：一酸化炭素

１１．有害性情報

急性毒性	：経口加算式による ATEmix ＞3000mg/kg より区分外に分類。 経皮加算式による ATEmix ＞3000mg/kg より区分外に分類。 吸入（蒸気） 現在のところ有用な情報なし。 吸入(ﾐｽﾄ) 加算式による ATEmix 2.18mg/L より区分４に分類。
皮膚腐食性／刺激性	：区分２の皮膚刺激性成分(ﾐﾈﾗﾙｽﾋﾟﾘｯﾄ)を 10%以上含む。混合物として皮膚刺激性　区分２に分類される。

眼損傷性／刺激性　：現在のところ有用な情報なし。
呼吸器感作性／皮膚感作性　：呼吸器感作性現在のところ有用な情報なし。
皮膚感作性現在のところ有用な情報なし。
生殖細胞変異原性　：区分２の生殖細胞変異原性成分（鉱油）を 1%以上含む。
混合物として生殖細胞変異原性区分２に分類される。
発がん性　：現在のところ有用な情報なし。
生殖毒性　：現在のところ有用な情報なし。
特定標的臓器毒性単回暴露　：区分３（麻酔作用）成分（ﾐﾈﾗﾙｽﾋﾟﾘｯﾄ、DME）を 20%以上含む。混合物として区分３（麻酔作用）に分類される。
特定標的臓器毒性反復暴露　：区分１（肺、皮膚）成分（鉱油）を 1～10%含む。区分２（精巣、肝臓）成分（ﾐﾈﾗﾙｽﾋﾟﾘｯﾄ）を 10%以上含む。
混合物として区分２（肺、皮膚、精巣、肝臓）に分類される。
吸引性呼吸器有害性　：誤嚥により化学性肺炎を引き起こす可能性がある成分（ﾐﾈﾗﾙｽﾋﾟﾘｯﾄ）を含有するため区分１に分類。
その他の有害性情報　：高濃度の蒸気やミストの吸入は、呼吸器官を刺激し、頭痛、めまい、麻痺、眠気、意識不明のような症状を引き起こしたり、中枢神経に影響を与えることがある。液との長期間又は繰り返しの接触は、皮膚の脱脂、乾燥、ひび割れを起こし、皮膚炎になることがある。
ミストを長期間、過度に吸入すると、肺に慢性的な炎症を起こし、肺動脈繊維症となることがある。誤飲した場合、胃の粘膜を刺激し、嘔吐、胃痛、下痢等の症状を起こすことがある。

１２．環境影響情報

生態毒性
水生環境急性有害性　：急性毒性区分１、区分２に分類されるﾐﾈﾗﾙｽﾋﾟﾘｯﾄを 25%以上含有する。成分の加算法による混合物の急性毒性の分類によって区分２に分類される。
水生環境慢性有害性　：慢性毒性区分１、区分２に分類されるﾐﾈﾗﾙｽﾋﾟﾘｯﾄを 25%以上含有する。成分の加算法による混合物の急性毒性の分類によって区分２に分類される。
本混合物の成分 32%については水生環境有害性が不明である。
その他のデータ　：現在のところ有用な情報なし。
残留性／分解性　：現在のところ有用な情報なし。
生体蓄積性　：現在のところ有用な情報なし。
土壌中の移動性　：現在のところ有用な情報なし。

１３．廃棄上の注意

残余廃棄物　：事業者は産業廃棄物を自ら処理するか、または知事等の許
可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。投棄禁止。
廃油の埋立処分を行う場合には、あらかじめ焼却設備を用いて焼却し、その燃えがらについて、重金属等の物質が総理府令で定めた基準以下であることを確認しなければならない。燃焼する場合には、安全な場所で、かつ、燃焼または爆発によって他に危害または損害を及ぼす恐れのない方法で行うとともに、見張人をつけること。
火気厳禁。風通しの良い場所で少量ずつ廃棄する。中身を使い切ってから、火気のない戸外で噴射音が消えるまでボタンを押し、ガスを完全に抜いて

から捨てること。

汚染容器及び包装　：空容器を廃棄する場合、内容物を完全に除去した後に処分する。

１４．輸送上の注意

国内規制　：下記、輸送に関する国内法規制に該当するので、各法の規定に従った容器、積載方法により輸送する。

陸上輸送　：消防法の規定に従う。危険物第四類第二石油類

海上輸送　：船舶安全法に定められている運送方法に従う。

航空輸送　：航空法に定められている運送方法に従う。

国連分類及び国連番号　：2.1/1950

特別の安全対策　：危険物は当該危険物が転落し、又は危険物を収納した運搬容器が落下し、転倒もしくは破損しないように積載すること。危険物又は危険物を収納した容器が著しく摩擦又は動揺を起こさないように運搬すること。食品や飼料と一緒に輸送してはならない。

１５．適用法令

労働安全衛生法　：施行令別表第一危険物、通知対象物質

有機溶剤中毒予防規則　：第３種有機溶剤

国際海上危険物規定　：第９条の２ 届け出を要する物質（３００Ｋｇ）

高圧ガス取締法　：一般高圧ガス保安規則第２条（可燃性ガス）

船舶安全法　：危規則第３条危険物告示（高圧ガス）

航空法　：規則第 194 条危険物告示（高圧ガス）

消防法　：危険物第四類第二石油類（非水溶性）

化学物質排出把握管理促進法（ＰＲＴＲ）　：1,2,4-ﾄﾘﾒﾁﾙﾍﾞﾝｾﾞﾝ　1.9%

１６．その他の情報

記載内容の問合せ先　：株式会社パーカーコーポレーション 技術本部 化工品技術室 技術一課
電話番号　03-5634-8491　　ＦＡＸ番号 03-5634-8495

引用文献　：製品安全データシートの作成指針（日本化学工業協会）
危険物データブック（消防庁１９９３．１）
石油製品安全データシート作成の手引き（石油連盟１９９３．１２）
IARC MONOGRAPHS ON THE EVALUATION OF CARCINOGENIC RISK TO HUMANS:VOL45
化学物質等安全データシート（ＪＩＳ Ｚ ７２５０：２０１０）
危険物ハザードデータブック（田村昌三２００７．０５．２０）
実務者のための化学物質等法規制便覧（化学物質等法規制便覧編集委員会２００７年度版）
GHS 対応による混合物（化学物質）の MSDS 作成手法の研修テキスト（改訂版）（中央労働災害防止協会）
事業者向けＧＨＳ分類ガイダンス平成２１年度改訂版（平成２２年３月経済産業省）

ここに記載された危険性・有害性の情報は現時点で入手できた資料や情報に基づくものですが、情報の完全さ、正確さを保証するものではありません。化学物質の有害性には、予見できないこともあり、取扱いには細心の注意を払って下さい。記載事項は、通常の取扱いを対象としたものですので、特別な取扱いをする場合には、新たに用途・用法に適した安全対策を実施の上、お取扱い願います。また、この情報は新しい知見および試験等により改正されることがあります。